

映画で残す久賀高の青春

甲子園出場 エピソードも 介護福祉先駆け 学舎紹介

県の高校再編で今春、90年の歴史を閉じた周防大島町の県立久賀高校を舞台にした青春の思い出やユニークな福祉科の存在を描いた2本の映画が、同校OBの東京都世田谷区在住の映画監督、岡本明久さん(72)の手で完成した。22日に試写会がある。

OB監督が2本 22日に試写会

「永劫燦たる光明あれ」(上映時間80分)と「福祉の星たち」(同40分)のタイトル。岡本さんが運営する「シネマ・クラフト21」と久賀高校同窓会が共同制作し、DVDとして販売される。「光明あれ」は、校歌の歌



久賀高校時代の甲子園出場の記念碑がある校庭。周防大島町久賀の周防大島高校久賀校舎

朝日新聞 平成二十一年十一月十八日

詞の最後の一節から採った言葉。映画の冒頭で今年3月の最後の卒業式の模様などを描き、1919年に大島郡立の高等女学校として創設された歴史や卒業生で歌人の橋本武子の足跡、戦時下の学徒動員の様子などを経験者の証言を交えて描き出している。

岡本監督がこだわったのはスポーツと勉強の両輪で発展した母校の姿だ。高校野球で39年の夏の甲子園大会に出た時のエピソードにも力を込めた。高校野球ファンとして知られた作詞家の故・阿久悠さんから贈られた久賀高の甲子園での健闘をたたえる「甲子園の詩 怪物のいない夏は」という詩を脚本化。映画では詩に曲を付けた歌を挿入、当時の映像や野球部員の練習風景を織り込んだ。

一方、「福祉の星たち」は久賀高に92年に当時の県立高校としては全国的に珍しかった福祉科が開設され、介護福祉の分野で先駆けの学舎となったことを紹介。現校名の周防大島高に引き継がれた後の実習風景を描く。このDVDは、福祉分野への理解を深めもらうため県内の中学校に

毎日新聞 平成21年11月19日

久賀高よ永遠なれ

今春閉校した周防大島町の県立久賀高校の歴史と、同校の福祉科を引き継いだ県立周防大島高校福祉科の活動をそれぞれ描いた記録映画2作品が22日午後1時から、同町久賀総合センターで上映される。主催した久賀高同窓会が同窓生以外の参加も募っている。無料。

久賀高は1919「福祉の星たち」(30年、大島郡立実科高等分)。2作とも久賀高女学校として創立。07 第8回卒業生の岡本明年、同校と安下庄高校 久監督(72)が監督・脚が統合し、周防大島高 本を担当した。

校が開校した。周防大 松田優作主演の「暴島高は普通科の生徒が 力教室」(東映76年、安下庄校舎、福祉科の 脚本も担当)などの代生徒は久賀校舎で学ん 表作がある岡本監督は

記録映画、22日上映

卒業生の岡本監督が制作 周防大島町

でいる。久賀高最後の「80代から若者まで30卒業生を送り出した今 人以上の証言を集め、春を節目とし、同窓会 生きた歴史を今後につが映画製作を企画し ながれようと思った」と語っている。小原勇同窓会長は「福祉科の存続と発展を願っている。福祉を指す中學生らにDVDにダビングした映画を配布した高齢者との交流を描く」と話している。

上映作品は▽久賀高の歴史を振り返る「永劫燦たる光明あれ」(80分)▽周防大島高福祉科生徒と介護を受ける高齢者との交流を描く